

第2回砺波市立学校のあり方検討委員会 議事録（概要）

- 1 開催日時 令和2年11月26日（木） 午後1時30分～午後4時40分
- 2 開催場所 砺波市役所 東別館会議室、鷹栖小学校、砺波東部小学校
- 3 出席委員の氏名（50音順 敬称略）
安念 匠太郎、飯田 哲弘、 金平 正、 久保田 晃克、笹田 茂樹、竹山 美紀
西島 健史、 林 誠、 樋掛 恵美、 藤井 法子、 藪 道子、 吉田 直人
- 4 欠席委員の氏名（50音順 敬称略）
井上 五三男
- 5 事務局の氏名
山本 仁史（教育長）、 構 富士雄（事務局長）、 河合 実（教育総務課長）、
岩滝 修二（教育総務課主幹）、 三部 修嗣（教育総務課庶務係長）
片山 智遥（教育総務課主事）

6 委員会次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 日程説明
- 4 鷹栖小学校視察
- 5 砺波東部小学校視察
- 6 議事
 - (1) 前回からの追加資料について
 - (2) 学校視察内容について
 - (3) その他
- 7 閉会

7 委員会の要旨

- | | |
|--------|--|
| 委員長 | <委員長あいさつ>
本日は、小学校2校を拝見させていただき、じっくり見させていただき、今後の議論の参考としたいと思います。 |
| 教育総務課長 | <日程の説明> |
| | <鷹栖小学校視察> |
| 鷹栖小学校長 | <鷹栖小学校の説明> |
| 委員長 | 生活科カリキュラムを2学年合同とあったが、現在もしているのか。 |
| 鷹栖小学校長 | 現在もしているが、さらに、総合的な学習や学活などで子どもたちが学んだことをアウトプットする場を設けることが大事だと思う。次年度に向けて、校内でワーキンググループを立ち上げ、作っているところである。 |
| 委員 | 鷹栖小学校は1学年1クラスだが、以前はもう少しクラスが多かったと思う。空き教室はどのように利用しているか。 |
| 鷹栖小学校長 | 特別支援学級にこれまでの普通教室を当てている。また、4年生と5年生の算数を |

- 二つに分けて指導する少人数指導の教室に当てたり、外国語の活動は賑やかになるため広い教室を利用している。
- 委員 小規模校ならではの良さがあると印象に残った。特に1人1人に教師の目が届きやすいのは良い。
- 一方、競争力の低下というところで、運動会や学習発表会などの学校の行事を1学年1クラスでどのように実施しているか。
- また、委員会や児童会などの特別活動において、決まった子ばかりが率先して取り組むなどの偏りはあるか。
- 鷹栖小学校長 学校行事の運営の仕方については、運動会は縦割りの団を使っている。その団は運動会だけでなく縄跳び集会でも使用しており、上学年の子どもが同じ団の子どもに教えて団で競うなど、三つある色団を大事にしている。
- 学習発表会は、学年で立てた目当てを自分に落とし込み、それが生かせるように活動しているが、やはり教師主導という面は出てくる。
- 委員会活動については、委員会は7つで4～6年生が活動している。活動は1年間を通じて行うが、前期と後期で委員長や目当て、活動計画を変えている。
- 事務局 1クラスを3つに割って3団を作るということか。
- 鷹栖小学校長 そのとおり。児童が152人いるので1団50人ほどになる。その団で運動会や縄跳び集会を行う。
- 委員会活動でアルミ缶回収の個数をクラスごとで競争しようとしたが、クラスごとの競争は、なかなか競争意識が高まらない。担任の意識の差もある。教室みんなでがんばろうという意識には結びつきにくいと感じている。
- 委員 クラブ活動について、学校要覧で和太鼓、茶道、大正琴に下線が引かれているのはなぜか。
- 鷹栖小学校長 学校の教員も顧問として付くが、地域の和太鼓、茶道、大正琴の先生が毎時間学校に来られ学んでいる。
- 委員 校長が以前在籍していた大規模校と比較して、小規模校における教職員が働くうえでの課題は感じているか。
- 鷹栖小学校長 1つの学年を1人の教員が見ている。ベテラン教員もいれば若手教員もいる。20～30代の教員は、得意な教科もあれば不得意な教科もある。それについて相談する際は違う学年の先生に聞くしかない。同じ学年に複数の教員がいれば、ベテラン教員は若手職員に「こういうプリントを作ったがどうか」など資料提供もできるが1学年1人だと、全て自分で開拓しなければならないという大変さがある。
- また、校務分掌が多い。大きい学校も小さい学校もしなければならないことは似ている。どうしても、少ない人数で多くの仕事を分担することになり、教職員に負担がかかっていると思っている。
- 委員 課題の中にあつた子どもの人間関係の固定化の具体例は。
- 鷹栖小学校長 出勤前に子どもたちの集団登校を見守っている。登校中に2年生の子が立ち止まっていた。話を聞くと前を歩いていた児童に「速く歩かれ」と押され、それが嫌だったとのことである。その子に近寄ったときに、同じグループの児童が「こんな子だから仕方ない」と言った。その児童は友達が困っていたら助ける優しいところもあるが、立ち止まった子に対してはそのような捉えをしているのだと分かった。子ども達に「この子はこのような子」とインプットされると、それをどのように挽回したらいいのかと考えた。
- 委員 限界に近いかもしれないが一生懸命頑張っているという感じだと思う。今日は25

人と23人のクラスを見せていただいたが児童は楽しく取り組んでいたように見えた。これ以上人数が減ると、なかなかその状態が期待できなくなるとの話があったが、その人数の目安はどのような感じか。

鷹栖小学校長 井口中学校にいたとき、多い学年は22人で一番少ない学年は9人だった。構成メンバーにもよると思うし、私見であるが、10人以下になると様々な意見が出て欲しい道徳などでは厳しい面がある。

委員 人口政策なども絡んでいる。この検討委員会での課題ではないと思うが、そういうことが背景にあるということ意識しながら議論していく必要がある。

<砺波東部小学校視察>

砺波東部小学校長 <砺波東部小学校の説明>

委員長 少人数授業はどの単位で実施しているか。

砺波東部小学校長 学年ごとに実施している。

委員長 算数の授業が主か。

砺波東部小学校長 そのとおり。3クラスを4クラスに分けて実施している。

委員 少人数の学校と比較し、人数が多いことのデメリットは何か。

砺波東部小学校長 人数が多いため小さい学校よりも子どもに目が届きにくいという面はあるが、メリットの方が多いと感じている。いろいろな子どもたちがおり、人間関係を深めるとい意味で多くの仲間がいるのはよい。また、学級編成の面でも人間関係がうまくいかないときに、3つに分けるといのはとても有効。2クラスだとどちらかになっってしまう、経験上うまくかないこともあった。

事務局 毎年編成をしているのか。

砺波東部小学校長 2年生と4年生で編成している。

委員 教職員数の適正の面で、これ以上減ると具体的にどのような弊害が想定されるか。教員同士の学び合いや競い合いができないなどの弊害があるのか。また、教職員数の少ない学校からそのような声はあるか。

砺波東部小学校長 若い教員が増える中、授業をしながら成長してもらわなければならない。本校では3クラスの中に若手と中堅とベテランがおりそれぞれ差がある。若手が中堅に悩みを打ち明けたり、ベテランに困りごとを相談できるなどそれぞれの先生の良さを生かせる。私の前任校は単級学校だったが、初任の先生であっても学年のことをコントロールしなければならない。学習発表会や運動会でどのようなことをするかについて初任や2年目の先生が対応に奔走し苦労している状態だった。本校では助け合いが学年の中でできている。教職員数が減るとそこが難しくなる。

委員 子どもだけでなく、教職員の面から見ても3クラスというのはメリットがあるといふことか。

砺波東部小学校長 そのとおり。

委員 先ほど、児童数が多いことのデメリットについて話があった。以前、自分が砺波東部小学校に所属していた際は児童が750人いた。現在よりも150人多かったため現在と比較するのは難しいかもしれないが、例えば人数が多すぎるため集会をするとき廊下で渋滞を起こし移動に非常に時間がかかった。どのクラスからどの順番で入るかを考えなければスムーズに動けない。また、時間割を組むのに体育館や理科室等の特別教室を各クラスに平等に割り振るのは至難の業だった。少人数授業も3クラスで同じ時間に同じ授業を組んで少人数担当の先生を充てなければならない。それを各学年で行うとなると、その組み合わせはほとんど迷路のようで非常に大変である。

この規模は「学ぶ環境」として非常に適正というはあるが、全てが良いというわけではない。

委員 教室から4～5人の机が出ていた。コロナ禍の距離感覚では目一杯になっている。先ほどクラスの人数が30数人で3クラスというのがやりやすいという話もあったが、それが20数人であったとしても影響がないものか。

砺波東部小学校長 個人的な意見だが、20数人であれば好ましい。本校のコロナ禍の状況として、教室から1列分の机が出ている。もう少し人数が減れば机の間隔が取りやすく、活動がしやすい場合もあるだろう。

事務局 <議事(1) 前回からの追加資料について 説明>

委員 資料3の砺波市の人口について、なぜ平成22年の70～74歳が10年後の令和2年の80歳以上で2倍以上になっているのか。

事務局 「80歳以上」でまとめているため。10年間経ち高齢の方が増えている。

委員 鷹栖小学校では20数人が理想と言われていたが、6年後は1桁になる恐れもあり驚いた。また、中学校においても今後20人程度になる予想となっているが、小学校で20数人が理想と言われるのに対し、中学校で20数人という規模はどのようなものか。

委員 単級の中学校で10教科全てに教員が配置されない。例えば般若中学校では家庭科や技術科はその授業だけを担当する非常勤職員に来てもらっている。中学校は教科担任制のため免許を持っていないと授業ができず、授業が成立しない難しさがある。

また、部活動の顧問を充足できない。そうすると部活動の数を減らすという話になり、徐々に選択肢が狭まってしまうという課題がある。

委員 出町中学校は現在666人で、各学年6クラス、特別支援級が3クラスである。小学校を視察し、現在コロナ禍にある中で、いかに机の間隔を取るか考慮されていると感じたが、出町中学校では最大限に机の距離を取っても今日の2校のような距離は取れない。教室によっては教壇も撤去している。それが大きい規模の学校の苦しさだと思う。小さな学校の苦しさもあり大きな学校の苦しさもある。また、小学校とは体の大きさも違う。是非、委員の皆さんに中学校の様子も見てもらえば、どのような状況かがわかっていただけるだろう。

議長 砺波東部小学校は施設的に恵まれている。廊下がオープンスペースになっているなど、全ての学校が必ずしもこのような校舎ではない。

委員 6年後は人口が減ると示されたが、この検討委員会で話し合っても人口が減っていくかもしれないということは想像がつく。砺波市として人口をどう増やしていくかということを強く進めていかなければいけないと思う。もっと力を入れていかないと検討委員会をしても同じことの繰り返しになってしまうと思う。

議長 おっしゃるとおり。

事務局長 人口動態策については、日本全体の人口が減っており、奪い合いという要素は多分にある。ある市では転入による奨励金を出しているところもある。本市では金銭を支給する流れはとっていないが、婚活事業や三世代同居の推進など、様々な人口動態策は行っている。しかしながら、働く場所など首都集中型はなかなか解消されていないのが現状であり、市としては企業団地の造成も一つの取組みとして進めており、少しずつ人口動態策を進めているとご理解いただきたい。

委員 働く女性の話をよく聞くが、砺波市は働きにくいという声も多い。三世代同居も進めているが、三世代でない人は6時に保育園に迎えに行ったらあとは自分で見るしか

ないため、子どもがかわいそうで仕事を変えようとする女性もいる。市に働きにくい部分があると思われると、その世代は転入しにくいのではないかと。

事務局長 保育関係に関しては、現在、民営化も進めながらいろいろな施設を柔軟に選択できる形を進め、子育てのサポートに努めている。

議長 働きやすい環境があれば、子どもも遊べるし、育てられる。

委員 鷹栖小学校を見せていただき、クラスが少ないということで、グループワークやクラブ活動に影響が出るという話を聞いた。また、中学校に関しては、クラスが減ると全教科の教員が配置されないといった。このような問題は、学校同士の教職員の行き来など連携することで解決はできないのか。

教育長 今はそのような行き来はしていない。教職員は市の職員ではなく、人数や配置を決めているのは県の教育委員会である。要望等で市の教育委員会も関わりは持つが、最終的には県が決める。教職員を週3日はこの学校で残りの週2日は別の学校にとすることは、今後、検討課題になるかもしれないが、子どもが少ない学校はそれぞれ離れており、両方の学校に行くというのは教職員にとって負担が大きくなる場合もある。更に深刻なことに、家庭科や技術科の免許を持つ先生が養成されておらず、元々の人数がいない中で集めなければならないとの苦しさがある。このことを解消するには、養成されていない事態を何とかするのか、教職員の免許そのものを書き換えるのか、それとも教科そのものをなくすのかということまで行き着いてしまうという状況にある。学年に3学級あれば教科の教職員は大体揃うが、学年2学級だと辛い。逆に単級はまだいい。庄川中学校のように学年に2学級あると、県から非常勤講師すら派遣されず、自分の教科でない授業をしなければならない。このように、中学校と小学校では様子が違うこともあり、皆さんの同意が得られれば、次は中学校を視察いただきたいと思うが、どうか。

議長 次は中学校の視察の方向で考えようと思っている。

富山県では余り見られないが、複数の学校に兼務辞令が出ている都道府県もある。部活動についても、特定の部活動に力を入れて子どもたちを集めたり、複数の学校に在籍する子どもたちが一つの学校に部活に行ったりというのものもある。

＜議事（2）学校視察内容について＞

議長 小規模校と適正規模校を視察したが、印象や感想等を聞かせていただきたい。私の感想だが、クラスサイズは25人程度がちょうどいいと感じた。30人を超えると多いという印象がある。砺波市でどうこうできる問題ではないが、砺波東部小学校の規模が子どもにとっても教師にとってもよい規模であり、これより大きいと大きすぎるように感じる。

委員 同じくちょうどいいと感じる。砺波東部小学校は子どものエネルギーが充満していて「これが適正ということか」と思った。

一方で、小規模校は小規模のよさを生かしていることもわかった。それぞれの規模を生かした運営がされており、どちらがいいとは敢えて言いたくない。ただ、10何人ということになると、教職員の負担や、子どもたちの競い合い、学び合いという点もあり、ある程度人数は必要ではないか。

委員 市でクラスの人数を決めるのは不可能なのか。

議長 不可能ではないが、定員外の教職員の人件費は全額市の負担となる。

委員 子どもは減るが、教職員はあまり減らないと考えられるため、子ども1人当たりの教職員数は増えていく。子どもが減る中で、若手教員が育っていく環境等を考えると、児童生徒数だけでは推しはかれない問題がある。

また、人口動態をしっかりと見極める必要がある。商業施設や宅地等の開発との連携はなされていないと思われるが、今後、小中学生の人数が減っていくと高齢者の割合が増える環境となり、そこには高齢者向けの施設が増えるという状況になる。このような開発は民間も含めて行われるものであるため、市として流動的に動けるよう、特色ある学校づくりなど「子どもを誘導できるような環境」を柔軟につくらなければならない。地域のコミュニティの団結なども薄れていくため、それも課題と考えられる。単級の学校になってくると先生も生徒もつらくなるため、対策が必要である。

議長 国が30人学級を進めているが、是非、実現してもらいたい。30人定員になると実際のクラスの人数が20数人となる。

委員 砺波市の現状では1クラスが31～32人のクラスもあり、30人学級になると、それらは2クラスになってしまう。15～16人のクラスが多くできることになり良し悪しなところもある。15～16人のクラスが本当に適正かという点、少なすぎる気がする。

教育長 このようなケースが出てくるため、30人のクラスを二つに分けるか、一つのまま運営するかを選択する権利を市にいただきたい。30人を一つの教室で2人で見るという選択も可能であれば、15人だと少なすぎると判断する場合は1クラスにし、15人であってもクラスで競わせた方がいい子どもたちだと判断する場合は、二つに分けることも可能であるというようになれば良い。

委員 一律にこうしなさいと言われても苦しく、裁量権をいただければありがたい。子どもの問題だけでなく、教員の問題もあると分かった。砺波東部小学校であれば、教員同士で相談できるが、小さい学校であればできないと聞いたため、教員同士のコミュニティを繋げるようなことを市主体または学校主体で作れば良いと思う。

事務局 <議事(3) その他 説明>

※事務局より、次回の第3回委員会は中学校の視察を行う事を確認した。

教育長 <閉会あいさつ>

百聞は一見にしかずと言います。オンラインや紙媒体では伝わらないものがあります。例えば、教室に入ったときのおい、子どもたちの動きやエネルギーなどは見ないと伝わりません。物事を考えていくうえで、このようなものを大事にしていく必要があります。そして、小学校も中学校も見ていただいたうえで、どうすればいいかを議論していくことが必要だと思います。

この委員会で一つの方向性を決定するつもりはありません。この委員会の内容は地域へ公開するものですが、委員の皆さんに、どのような方向性があるかをある程度出していただくことにより、その議論が市民の皆さんの中へ伝わっていくことを期待しています。そして、更に市民の皆さんから様々な意見を頂戴し、その中から少しずつ方向性が出てくることを期待しています。

どうもありがとうございました。